

米大統領にオバマ氏

黒人初の大統領

11月4日投票で行われたアメリカ大統領選挙で、民主党のバラク・オバマ候補が当選しました。アメリカ史上初の黒人大統領の誕生です。アメリカ社会が、長期にわたる人種差別、人種の壁を乗り越えたことを示す歴史的出来事です。

ブッシュ路線の破綻

この選挙結果は、同時に、共和党ブッシュ政権がすすめたイラク戦争など国連を無視した先制攻撃戦略・一国覇権主義、貧困と格差を深刻にし、金融危機をもたらした新自由主義の経済政策などに対するアメリカ国民の強い批判を示しています。

当選したオバマ氏は、ブッシュ政権の諸政策からの「変革」を掲げ、期限を切ったイラクからの米軍撤退、核兵器廃絶、金融規制の強化などを提起してきました。

アフガニスタンへの自衛隊派兵の危険も

しかし、私たちが注意しなければならないのは、オバマ氏の外交政策の中に「アフガニスタンへの米軍増派と『同盟国』の協力取り付け強化」が含まれていることです。すでに米政府は、自衛艦のペルシャ湾での給油活動延長にとどまらず、アフガニスタンへの自衛隊派兵の圧力を強めており、自衛隊では輸送ヘリを山岳地帯向けに改良をすすめ、国内法の整理ができ次第、直ぐにでも米国の要請に応える準備を整えていることに警戒を強めなければなりません。

米民主党政権で繰り返された侵略戦争の歴史

米国が、民主党政権になったからといって、これまでの外交路線を自動的に改めると考えることは出来ません。事実、民主党政権の下で、米国は侵略戦争を何度も行ってきました。

重要なことは、平和を求める世界の草運動をさらに大きく広げて、軍事行動ではなく、話し合いによる紛争解決の道にすすませることです。

今こそ、平和憲法を生かした外交努力を

オバマ氏の勝利は、日本政府が取ってきたアメリカいいなり政治が、いまや通用しなくなっていることを示している点でも重要です。

日本も「日米同盟」に固執した対米関係を見直すべきときではないでしょうか。今こそ、憲法9条を持っている国として、平和憲法の立場に立った自主独立の外交政策を展開することが求められています。そのためにも、憲法9条改悪反対！平和憲法守れ！の世論を大きくしましょう。



重要、世界の草の根平和運動
強まる自衛隊派兵圧力に警戒